

2019年4月

親嶋会会長 内池正名

2019年度のスタート、そして平成から令和へ

4月13日に箱崎で開催された本部総会を皮切りに、16日の九州、18日の中部、19日の野洲、20日の関西、24日の北海道と全国の支部総会が開催されました。平成最後の総会に多くの会員に参加をいただき、私も時間の許す限り、各地の支部総会に参加いたしました。

本部、関西では、アイビーエムの現役役員の小池さん、武藤さんから最新技術動向などについて講演をいただきました。加えて、中部では新たにオープンした事業所の見学会が開催されました。騒然とした営業所でワイワイと仕事をしている人間としては、新オフィスの発想の大胆さに感動するやら、その空間の静寂さに驚くばかりです。

総会と懇親会を通じて、世代を超えたOB/OGの皆様との会話から元気さと笑顔に接することができたことも大きな収穫でした。また、私からは、親嶋会に関するいくつかの課題についてお話をしたり、会員の皆様からは支部活動の状況をお聞きすることで親嶋会全体の活性化のためのヒントもいただくことができました。

そして、大先輩諸氏と久しぶりにゆっくりお話をすることが出来たことも日本アイビーエムの持つ伝統を理解するためにも貴重な時間でした。日本アイビーエムが刻んできた、昭和初期からの80年を超える企業活動に関しては、文章や映像を通して社史的な歴史を知識として持っているつもりですが、一方、社員一人一人の体験も貴重な記録として存在しています。諸先輩のお話をお聞きしながら、企業活動を支えてきた人々の視点を一つ一つ加えていくことで、その時代における企業活動の全貌がより具体的に理解出来ると思っています。

アイビーエムの技術が社会の変化を生んできました。そして、社会の要請に対応してアイビーエムも変化してきました。常に時代の先端を歩んできた組織であり、組織を構成している一人一人がその力を発揮してきた成果でもあります。

親嶋会とは、その組織から解き放たれたOB/OGが集い、新たな人生価値(楽しさ、達成感)を創り上げて行くことが出来るのかが問われる壮大な実験でもあります。昭和から平成、そして令和と時代が変わる今、令和と言う時代をどう生きて行くのかを考えてみたいと思います。